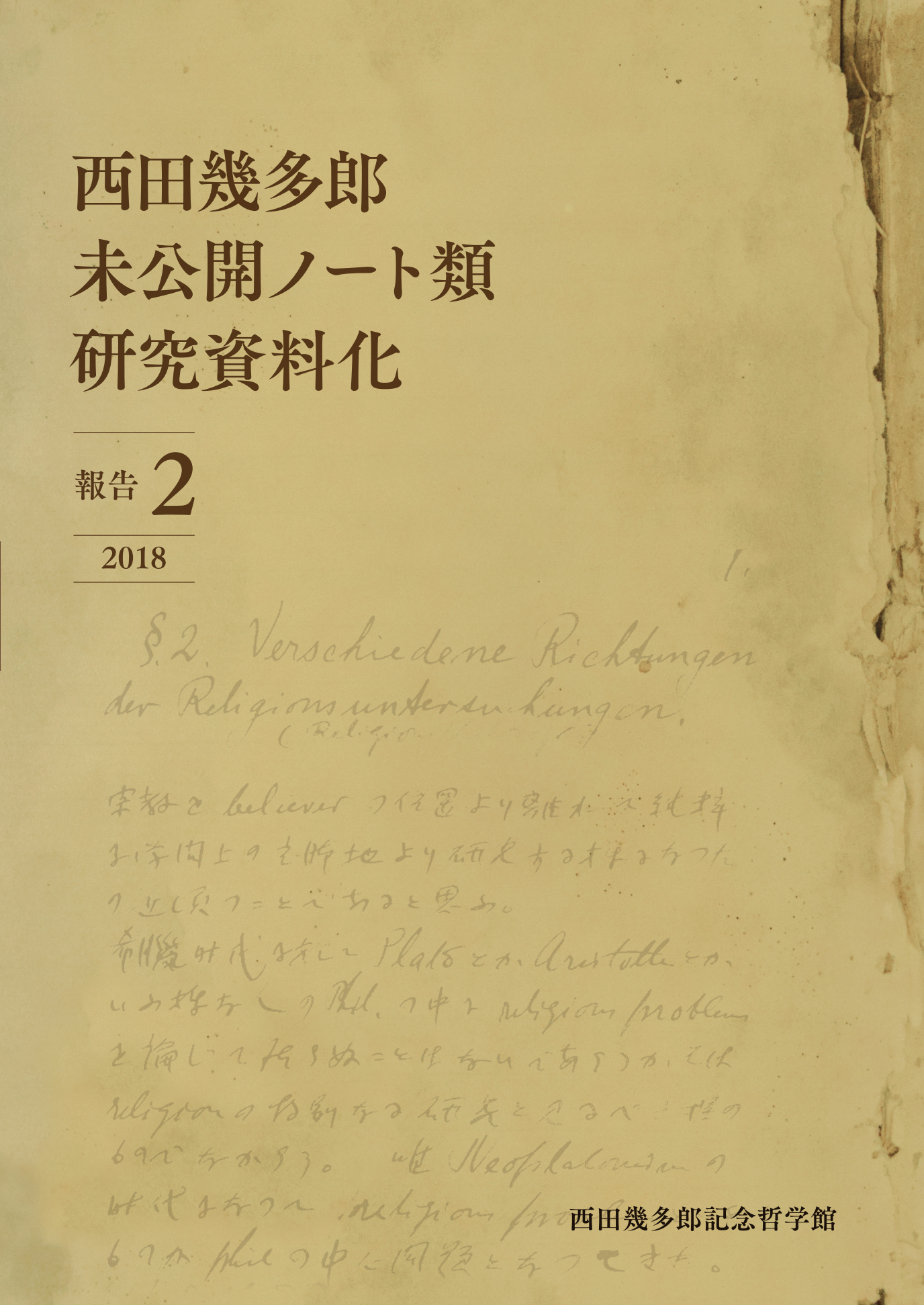
# 西田幾多郎
# 未公開ノート類
# 研究資料化

報告 2

2018



西田幾多郎記念哲学館

# 西田幾多郎
# 未公開ノート類
# 研究資料化

報告 2

2018

i　はじめに
浅見　洋（石川県西田幾多郎記念哲学館館長／石川県立看護大学特任教授）

1　写真 ―レプリカ作成・インク流れ資料の対応―

9　第一部　修復と翻刻の経過

11　2018 年度研究資料化事業の経緯
浅見　洋（石川県西田幾多郎記念哲学館館長／石川県立看護大学特任教授）

16　展示公開にむけたレプリカ作成
山名田　沙智子（石川県西田幾多郎記念哲学館専門員）

18　インク流れ資料の対応
山名田　沙智子（石川県西田幾多郎記念哲学館専門員）

20　2018 年度の一次翻刻作業について
中嶋　優太（石川県西田幾多郎記念哲学館専門員）

23　2018 年度の二次翻刻作業について
中嶋　優太（石川県西田幾多郎記念哲学館専門員）

25　メディア・学会での事業成果報告について
中嶋　優太（石川県西田幾多郎記念哲学館専門員）

29　報告資料

35　第二部　寄稿

37　日本宗教学会学術大会のパネル発表に参加しての雑感
秋富　克哉（京都工芸繊維大学教授）

40　1892 年の「印度哲学」講義
森　雅秀（金沢大学人間科学系教授）

43　インターネット上に日本哲学アーカイヴを
満原　健（奈良県立大学非常勤講師）

46　西田、学生時代の受講ノート発見か
吉野　斉志（京都大学文学部非常勤講師）

48　骨清窟のレクラム文庫～西田幾多郎旧蔵本（1）
髙橋　麻帆（石川県立看護大学非常勤講師／古書肆「髙橋麻帆書店」代表）

55　第三部　翻刻

57　「宗教学講義ノート第一分冊」（B04）について（2018 年度）
中嶋　優太　（石川県西田幾多郎記念哲学館専門員）

60　凡例

61　翻刻本文「宗教学講義ノート第一分冊」

97　「倫理学講義ノート第二分冊」（B06）について
中嶋　優太　（石川県西田幾多郎記念哲学館専門員）

100　翻刻本文「倫理学講義ノート第二分冊」

130　あとがき

131　執筆者一覧

# はじめに
## ―西田幾多郎全集と手書き史料の研究資料化―

浅　見　　洋
（石川県西田幾多郎記念哲学館館長／石川県立看護大学特任教授）

本報告書は、2017 年度から本格的に開始した西田幾多郎直筆の未公開ノート類研究資料化事業の 2018 年度の進捗状況報告である。本ノート類を「未公開」と称する理由は、それら大量の史料が新版『西田幾多郎全集』に全く公開されておらず、新版全集編集者の方々の目に触れた形跡が全く存在しないからである。

これまで、生前中には発表されなかった西田幾多郎の手書き史料の公刊は主に全集刊行作業の一環としてなされてきた。西田幾多郎全集（岩波書店）は 1947～1953 年に初版 12 巻及び別巻 6 巻、1965～1966 年に増補改訂版 19 巻、2002～2009 年に編集者を一新し、全面的な増補・改訂を施した新版全集 24 巻が刊行されている（以下、これらの全集をそれぞれ旧版、旧二版、新版と略記）。活字化されていない西田の手書き史料が全集で公開され始めたのは旧版別巻からであり、その事情を旧版の編集者の一人であった下村寅太郎は次のように伝えている。

> 西田幾多郎全集は漸く本巻十二冊を完了して、目下別巻の刊行が進行中である。･･･別巻は既刊の著作に収録されたことのない小論文、小品、序跋、講演、講義、ノート、日記、書翰を四巻に亙って収載する豫定になつてゐる。本巻は生前先生自身の手で公刊されたものの厳密な校訂出版であつたが、別巻の内容は本全集で初めて纏められたもので、一般読者には所見の極はめて眼あたらしい佳什に満ちてゐる。（下村寅太郎「西田幾多郎全集別巻について」、『図書』21 号、1951 年 6 月号、16-17 頁）

旧版全集の第一回編集会議がなされたのは、編集を補助した下村の高弟・永井博によれば、1946 年 9 月 20 日のことであり、完結したのはその 6 年 8 ヶ月後である。この編集会議で最も議論になったのは「書簡、日記」などの公刊されていない手書き史料の掲載（資料化）であった（永井博「編輯の跡を顧みて」、『西田幾多郎全集』別巻六、『付録』6、1953 年 7 月、4-7 頁）。そうしたいくつかの証言を勘案すると、当初全集として刊行が計画されたのは本巻 12 巻であったが、何度かの編集会議を経て、手書き史料の掲載を主目的に別巻刊行が決まったと考えられる。ただし、上述の下村の証

言から推せば、1951 年時点では別巻 4 巻の刊行が決まっていたが、その後の編集会議で翻刻、収録すべき史料が増えたために 2 巻を追加し、最終的に 6 巻の別巻が刊行されることになったのであろう。

別巻中、今回の新史料に類似するノート、メモ類が底本になっているのは、別巻二と四である。別巻二の後半には「ノート」と題されて「講案　その一　一九二六年（Vorlesung）」「講案　その二　一九二六年（ἐνύπνια、August 1926）」「Pensées（思索）一九二八年一月」「断想　第一」「断想　第二」「備忘」が、別巻四には「哲学概論」「宗教学」が収録されている。別巻二所収の前 3 種のノートはそれぞれ「Vorlesung（講義）」「ἐνύπνια〔夢〕」「Pensées〈思索〉」と記されており、それについては山内得立が「後記」（440 頁）で次のように記している。

> 果たしてこれらが講義ノートであったか、又はその頃の思索の跡を記されたものであるかよく分からないのであるが、内容から見ると、学校の講義の準備として組織的に書かれたものではないやうである。（旧版別巻二 440 頁）

その他、3 つの公開された資料の中、2 つの「断想」は思索メモ、「忘備」は読書メモに類するものである。

第二巻所収の 6 種のノートは、旧二版では第十三巻後半に「ノート」として収録され、新版第十五巻でも若干体裁を変えて収録された。加えて、新版では「Vorlesung Sept.」「Vorlesung Okt.」という 2 つのノートを追加しているが、これらは旧版の「講案」に類するものであって、山内が記したように「学校の講義の準備として組織的に書かれたものではない」と考えてよい。また、「断想　第一」「断想　第二」「備忘」は「断章」の部分として新版第十六巻に新たな校訂と編集を加えて収録されている。

旧二版では、草稿、ノートに類するものは第十五巻の「講義」に「哲学概論」「宗教学」、第十六巻の「初期草稿」に「英国倫理学史」「心理学講義」「倫理学草案」「純粋経験に関する断章」と第四高等学校時代、帝国大学在学中に書かれた 3 稿が収録されている。

新版では、草稿、ノート類を増補するに際して新たな編集方針が立てられた。第十四巻の「凡例」冒頭にはノート類の収録に関する基本方針を次のように示している。

> 著者が大学などで行った講義の聴講者による筆記を「講義記録」、講義のために著者自身が準備したノートを「講義ノート」として第十四、十五巻に収め、それ以外のノートを内容に鑑みて、著者が独自の思索を展開しているものに「断章」、主として著者以外の著作について筆記しているものに「研究ノート」という名称を付した上、これらを第十六巻に収めた。（⑭ xiii）

上述の方針に基づいて第十四巻前半の「講義記録」には「宗教学」「哲学概論」「ア

リストテレスの形而上学」「プロチノスの哲学」、後半の「講義ノートⅠ」には「英国倫理学史」「心理学講義」「倫理学草案」、第十五巻「講義ノートⅡ」には「哲学概論」、「Vorlesung 1926〔講義 1926〕」、第十六巻には「断章」（「純粋経験に関する断章」「断章ノート」、「研究ノート」）が収録されている。第十四巻前半の講義記録は久松眞一、高坂正顕、下村寅太郎、島谷俊三等のノートを底本として、京都帝国大学時代の西田の講義を直接聴講した学生たちのノートを参照しながら編集したものである。それに比して第十四巻後半の「英国倫理学史」「心理学講義」「倫理学草案」（「倫理学草案」には倫理学草案（一）と倫理学草案（二）が含まれる）は西田の第四高等学校時代の直筆の講義ノートを翻刻したものである。また、第十五巻の「凡例」には《底本は自筆ノートを使用した．但し，「Vorlesung1926」の内，「講案　その一」「講案　その二」については，旧版全集第十三巻（第 4 刷，1988 年 11 月発行）を底本とした》とあるように、第十五巻所収の「哲学概論」は西田の直筆の講義ノートの翻刻である。この講義ノート「哲学概論」と第十四巻所収の講義記録「哲学概論」の相違を第十五巻の「後記」で編集者のリーゼンフーバーは次のように記している。

> 本全集第十四巻に収録された「哲学概論」は，高坂正顕によって昭和 2（1927）年度の講義記録を中心にまとめられたものであるが（第十四巻「後記」参照），それに対して本巻所収の「哲学概論」は，明治末年のものと思われる西田自身の 6 冊の筆記ノートを翻刻し，編集したものである．（⑮447）

それゆえ、西田の直筆講義ノートとして現在すでに翻刻、活字化（研究資料化）されているのは第四高等学校時代の「英国倫理学史」「心理学講義」「倫理学草案 ―倫理学草案（一）、倫理学草案（二）―」と京都帝国大学時代の「哲学概論」である。それに比して、私たちが現在研究資料化に取り組んでいる「倫理学講義ノート」「宗教学講義ノート」は京都帝国大学での直筆講義ノートであり、倫理学としては最後の、宗教学としては唯一の西田の直筆講義ノートである。また、「倫理学草案」の「後記」に次のような記述がある。

> 〔一九〇五年：引用者注〕八月十一日には「倫理学草案第一」を完成させた後、翌十二日の日記には「此日は倫理学講義の「二」につき考へたが、よき考いでず」と記され、･･･三十九〔一九〇六：引用者注〕年三月二十五日に「今日宗教問題を考ふ、可決を得ず」と言われているのは、「倫理学草案第二」の末尾に置かれた「宗教論」を指すものと思われる。（⑭656）

とすれば、私たちが取り組んでいる「倫理学講義ノート」「宗教学講義ノート」の翻刻作業は新版全集十四巻所収の「倫理学草案（二）」以降に書かれた講義ノートの研究資料化であり、『善の研究』成立直後の手書き史料の公開である。それゆえ、本未公開

ノートの研究資料化事業はこれまで旧版全集、新版全集の編集者をはじめとして、これまで西田幾多郎全集に携わって来られた先達の意図と努力を継承しているのだという感を深くしている。

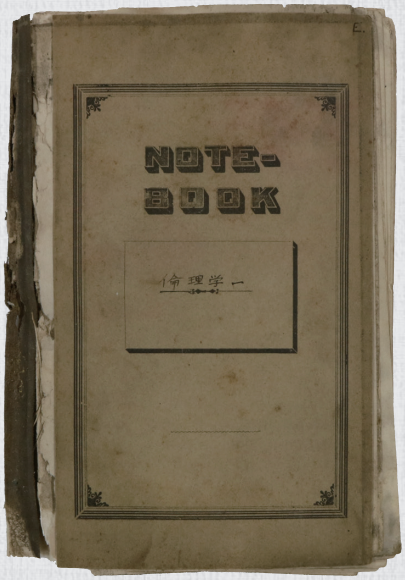
本未公開ノート史料の翻刻が新聞やテレビ等で全国的なニュースになったためか、このところ第四高等学校、京都帝国大学時代に西田の講義を受講した学生たちの筆記ノート等の情報がいくつか寄せられているのは、本翻刻事業の意図せぬ副産物である。

欧米のいくつかの哲学者、思想家の史料館では全集の刊行、増補、研究資料化を目途に長年にわたって史料収集の努力と資料研究が続けられている。日本の研究環境においてそれと同じような資料研究、アーカイブプロジェクトがどこまで可能であるかは分からないが、私たちのプロジェクトもそうした欧米の範に倣って地道に、一歩ずつ成果を残していけたらと願っている。

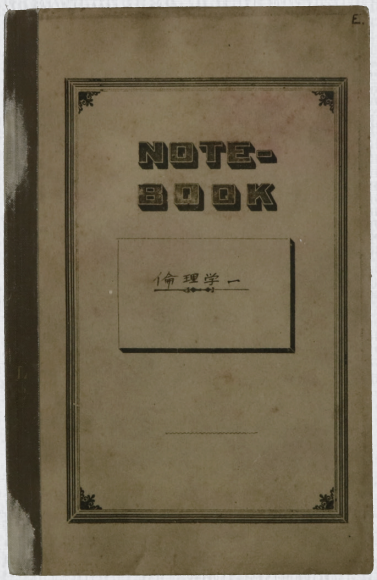
（**注記**）新版全集のからの引用は⑭636 などと記した。⑭636 は第 14 巻 636 頁を示す。

# 写真

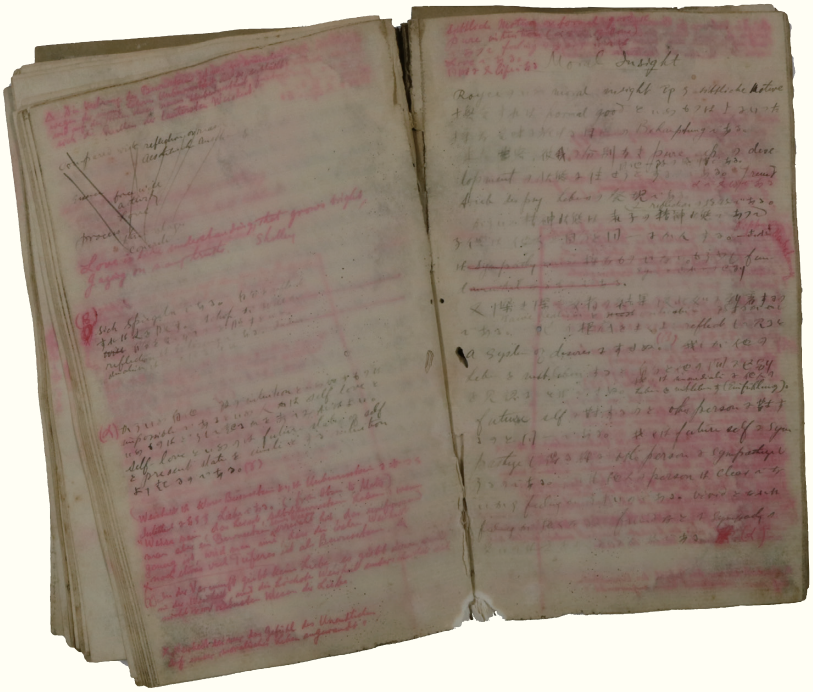
## レプリカ作成・インク流れ資料の対応



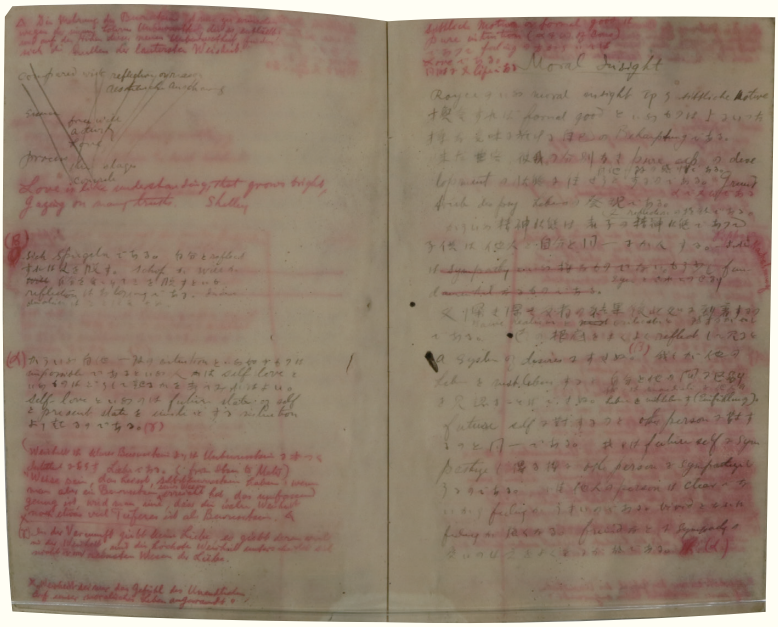

原資料（B05）



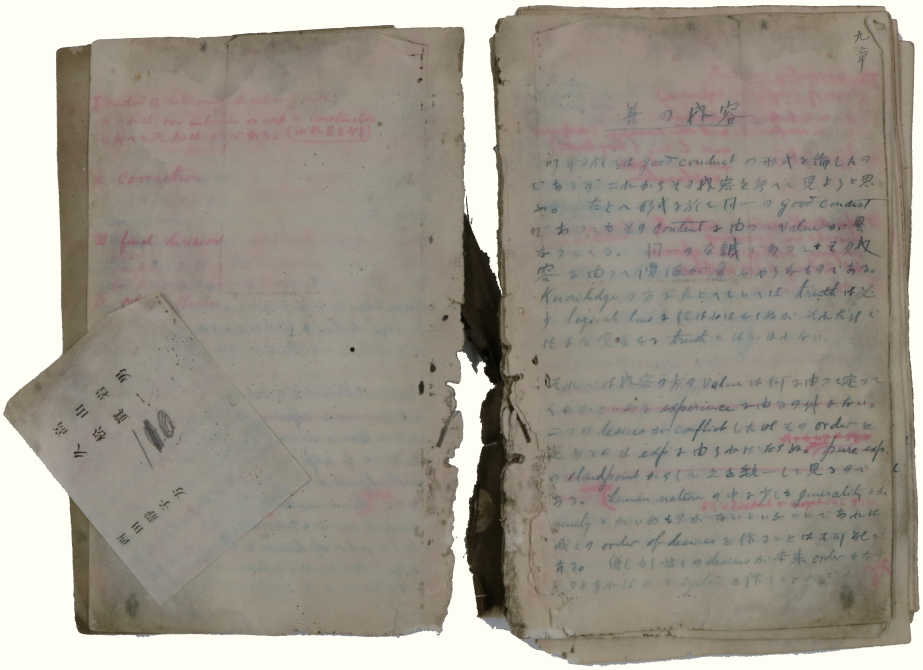

レプリカ（B05）



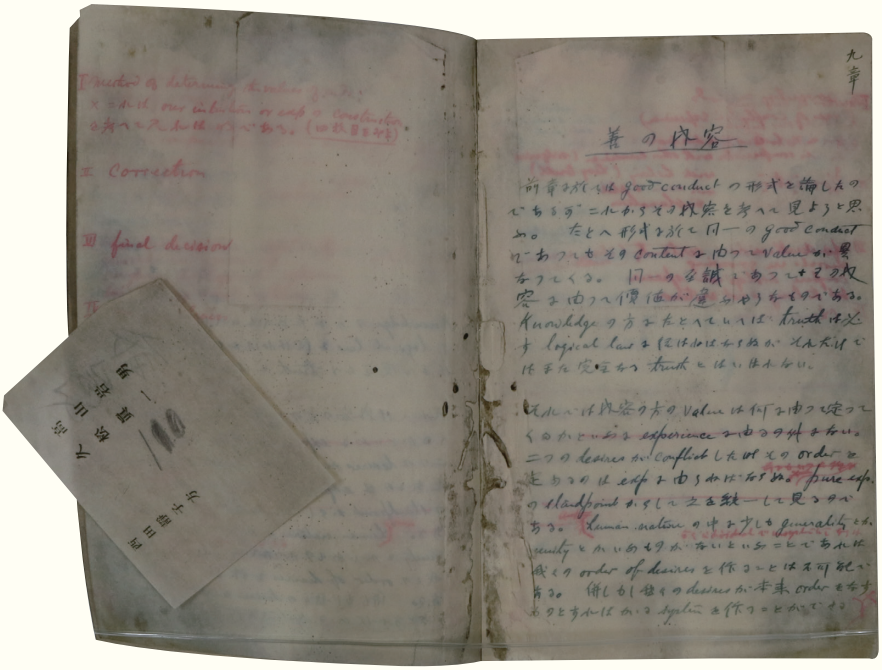
原資料(B07)。ページを開くことも難しい不安定で危険な状態。



レプリカ(B07)。原資料の雰囲気を残しつつ、安定した状態で再現。



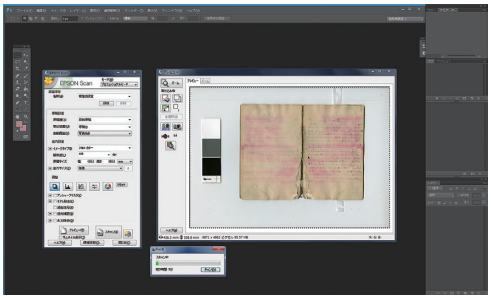
原資料(B08)。文字がかすれ、背も外れている。



レプリカ(B08)。文字は読みやすく調整。挟み込み紙とその跡まで再現。

# レプリカ作成

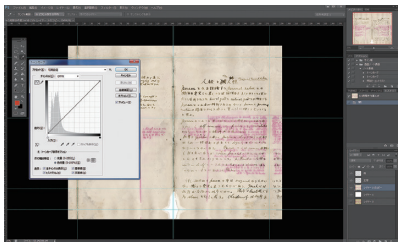
資料発見の報道後、ノートの展示を期待する声をいただくことが多かったが、修復を経ている資料も、長年の汚れや黴による浸食などにより、展示に堪える状態ではない。そのため、西田幾多郎生誕 150 年となる 2020 年に向けて、展示公開のためのレプリカを作成した。レプリカは、原資料の雰囲気を損なわないように細心の注意を払いつつ、展示品としての活用を想定して、必要な強度を持つように作成された。詳細は本誌所収の山名田「展示公開にむけたレプリカ作成」を参照。



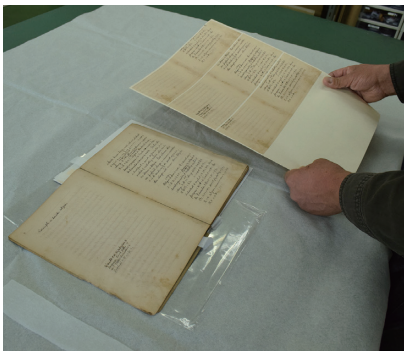
ノートスキャン作業

出力紙作製

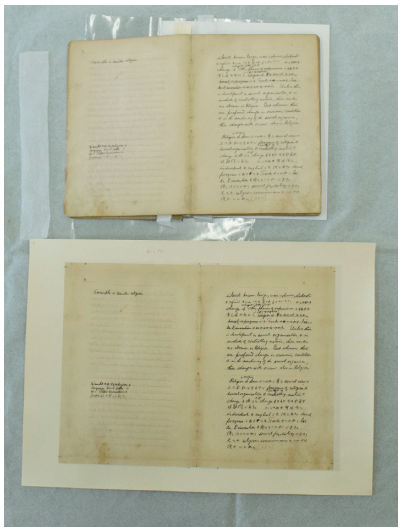
レプリカ用紙選択



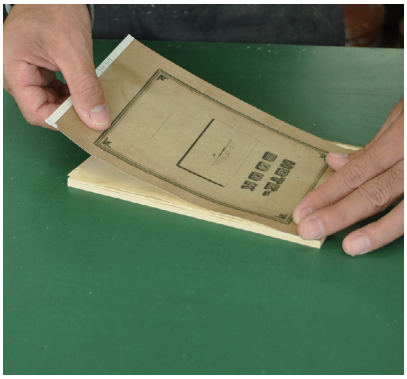
画像処理



色調整・テスト出力



校正出力及び・本出力

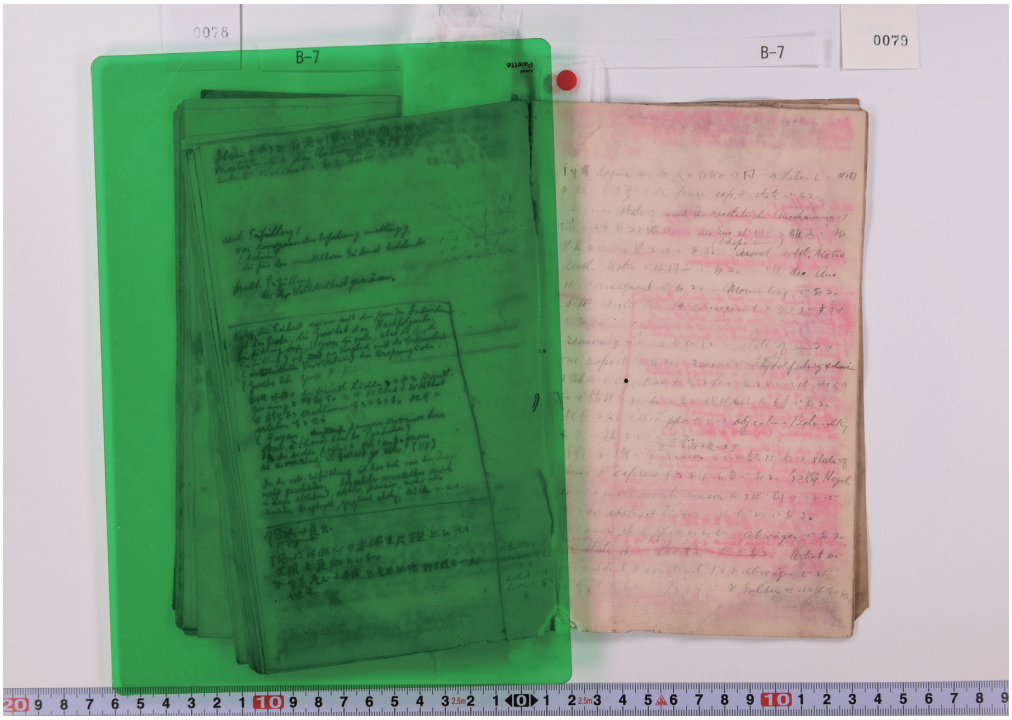


製本・古色加工

製本・古色加工2

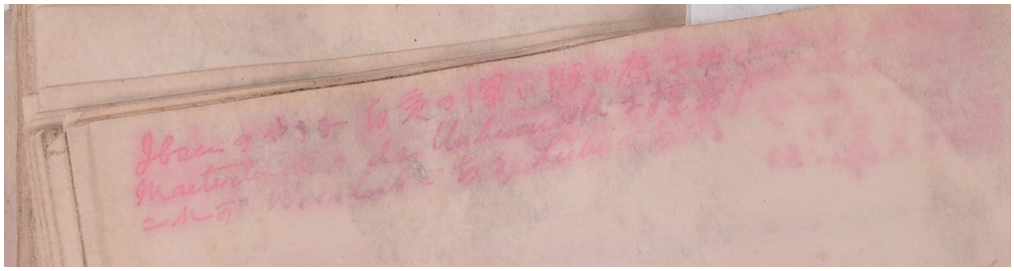
# インク流れ資料の対応

資料の中にはインクが流れ、文字の判読が困難なものもあった。特に赤インクの滲みが顕著で、当初撮影した画像では文字を読むことができなかった。そのため、インク流れ資料の対応を模索し、読みにくい赤インクの文字は、緑色の下敷きを挟み込むことで読みやすくなることが分かった。そのため、重要でかつ読みにくい資料について、再度、高性能画質での撮影を行い、部分的に緑色の下敷きも用いた。対応の詳細は本誌所収の山名田「インク流れ資料の対応」を参照。

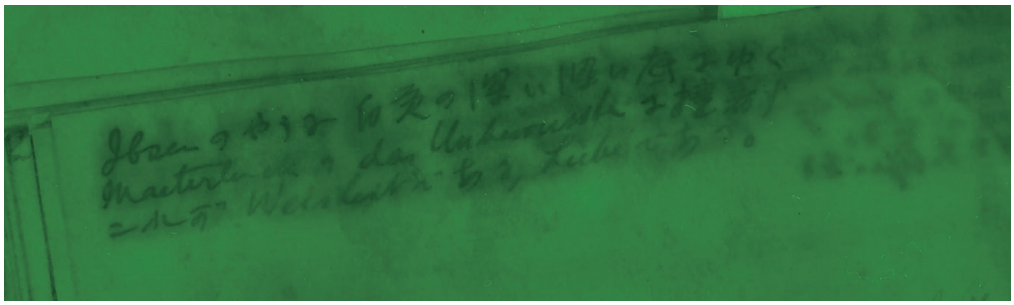


緑色の下敷きを用いて撮影する。

インクが流れた箇所の元画像



高性能画質での再撮影



緑下敷きを挟むことで赤インクが読みやすくなる。「Ibsenのやうに自覚の深い深い底にゆく」

**西田幾多郎未公開ノート類研究資料化　報告２（2018）**

2019 年 3 月 29 日　発行

編　集　浅見　洋・中嶋　優太・山名田　沙智子

発　行　石川県西田幾多郎記念哲学館

〒929-1126　石川県かほく市内日角井 1 番地

TEL：076-283-6600　FAX：076-283-6320

E-mail：nishida-museum@city.kahoku.lg.jp

HP：http://www.nishidatetsugakukan.org/

出　版　前田印刷株式会社出版部

ISBN978-4-944014-16-3　C3010

Sidgwick 等とは free will の議論は Ethics に関係がないと

ISBN978-4-944014-16-3
C3010 ¥1389E
定価 1,500 円
9784944014163
1923010013893

# Free Will.

free Will の議論は昔から盛くやかましく論せられたものである今も決着のつかぬ問題である

なぜいろいろと論せられた問題であるから free という意味
まだまだ多くの議論の批評もあれば
それから
此の問題をいろいろ論ずるにはまづ定め
事柄を用
ばかりで
body を離しても此意味をもつて居らぬ。
freedom
中に
made
故
free will
問題
free will の
tendency
conl.
それで
freedom
ways of conl.
conflict of motives
である。(logical law の